

平成30年度秋田県幼児教育推進体制構築事業
「平成30年度わか杉っこ！育ちと学び支援事業フォーラム」
及び秋田県大館市保育施設訪問研修 記録

1 目 的

- (1) 教育の先進地である秋田県における幼児教育推進体制構築事業のフォーラムに参加し、同事業の取組の状況を研修することで、本市における今後の取組への参考にする。
- (2) 社会福祉法人 大曲保育会が運営する大曲中央保育園及び大曲南幼稚園を訪問し、運営状況、幼児教育推進体制構築事業との関連等の情報交換および両園の保育参観を行うことにより、本市における幼稚園、保育所の質の向上を図る上で参考にする。

2 期 日

平成30年10月11日（木）～10月12日（金）

3 研修場所

- 1日目 大館市市民文化会館
- 2日目 A会場 大館市立有浦保育園・大館市有浦小学校
B会場 大館市立扇田保育園
C会場 大館市立たしろ保育園

4 参加者

(幼児教育コーディネーター) 千葉ふみ子 清水 幸子 三浦 三枝子
(教育委員会学校教育課) 副参事(指導主事) 小野寺裕史 主査 小原 聖

5 研修内容

主 催 秋田県教育委員会
共 催 文部科学省 秋田県大館市
対 象 秋田県内及び全国の行政関係者(教育委員会、首長部局)、就学前施設(幼稚園・保育所・認定こども園等)の教職員、小学校等の教職員、幼児教育アドバイザー等

日 程

1日目 10月11日(木)

11:30	12:00	12:20	14:10	15:10	16:25	16:40	16:50	17:00
受 付	開 会	基調講演	事例発表1	事例発表2	講 評	説明		閉 会

【基調講演】 「教育・保育の質向上のためのネットワークづくり」

講師 東京大学大学院教育学研究科 教授 秋田 喜代美 氏

【事例発表1】 幼児教育の推進体制構築事業の取組(北海道・東北地区受託自治体)

北海道・北海道教育委員会 宮城県・気仙沼市教育委員会

- 北海道の発表は、北海道の広さゆえの大変さや工夫をすることができた。北海道全14管内において「幼児教育を語る会」が実施されていることから教育への情熱を感じた。
- 気仙沼市の発表は、市としての取組の歩が分かりやすく、他市の取組の参考になると感じた。発表を聞く中で、自身が関わって取り組んできた活動の振り返りができ、今後の課題等に気付くことができた。さらに、コーディネーター内で検討を進めていきたい。

【事例発表2】 幼児教育の推進体制構築事業の取組(秋田県の取組)

秋田県教育庁幼保推進課
大館市・男鹿市・横手市

【講 評】 秋田県における取組について 大阪総合保育大学 学 長 大方 美香 氏

- 秋田県では、県が中心となって幼児教育を牽引している。この方針と取組の根底にあるのは、幼児教育が教育の土台であり、その充実を図ることが秋田の教育を支えるということが伝わってきた。その具体的なものは、幼保一体化を進めてきたことである。昭和46年に当時の知事が幼保の一層の連携強化を打ち出して以来、昭和61年度に県教育庁に「幼児・養護教育課」の設置による幼保一体の共同研修等が開始された。平成16年には「幼保推進課」が設置され、幼児教育の推進体制が整うなど、幼児教育推進体制がしっかりと整っている。幼児教育アドバイザーについて、県としての方向性があり、研修等の支援体制がしっかりできている。幼保の連携や幼児教育アドバイザーの派遣事業についても10年以上の取組があり、保育所への指導体制もできていると感じた。
- 東京大学秋田喜代美教授の講演では、保育教育の質の向上を図るためには、多様な次元の保育の質（子どもの成長の質、プロセスの質、構造的な質）があり、そのうち、プロセスの質が確保されなければ構造的な質への投資の効果は保証されないという言葉が印象に残った。そのほか、質向上を図る専門家としてのネットワークづくりについては、評価・検証のための「見える化」をすることが大切であり、その見える化とは、「状況の見える化」「記憶と思考の見える化」「差異の見える化」などがあることが大変勉強になった。

2日目 10月12日(金)

11:15 13:00

15:20 15:30

受 付	公開保育 公開授業	昼 食	分科会	閉 会
--------	--------------	--------	-----	--------

A 有浦会場

【公開保育・公開授業】 大館市立有浦保育園 5歳児クラスの保育参観
大館市立有浦小学校 第1学年、第2学年の授業参観

【分科会】 行政担当者による協議等

〈テーマ〉

- ・これからの教育・保育の推進体制構築における行政の役割
- ・小学校教育との円滑な接続を支える行政の役割

話題提供者 文部科学省初等中等教育局幼児教育課職員

秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 斉藤 丈彦氏

秋田県大館市教育委員会 教育監 山本 多鶴子氏

助言者 秋田大学教育文化学部 教授 奥山 順子氏

コーディネーター 秋田県教育庁幼保推進課 副主幹兼班長 花田 一雅氏

B 扇田会場 C 田代会場

【公開保育・分科会】

年齢別保育参観・研究協議の参観

「外部指導者及び教育・保育アドバイザーの活用による園を越えた学び合いの実際」

会場	B 扇田会場	C 田代会場
公開年齢	大館市立扇田保育園（1・4歳児クラス）	大館市立たしろ保育園（2・4歳児クラス）
研究協議	就学前教育・保育施設等の保育者 （大館市・鹿角市・小坂町・北秋田市）	就学前教育・保育施設等の保育者 （大館市・鹿角市・小坂町・北秋田市）
協議支援	教育・保育アドバイザー（大館市・横手市）	教育・保育アドバイザー（大館市・男鹿市）
助言者	秋田大学教育文化学部 准教授 山名 裕子氏	聖園学園短期大学 准教授 蛭田 一美氏

- 幼児教育の質の向上について、キャリアに応じた研修の設定ができていることが参考になった。本市としても、キャリアに応じた育成指針の作成をしていくことが必要と考える。その育成指針があれば、その指針に沿ったアドバイスできるようになると感じた。
- 保育参観では、保育のねらいに応じた環境づくりを大切にしている実践をみることができた。工夫された環境の中で、子供たちがのびのびと活動し、様々な気づきをしており、改めて環境づくりの大切さを実感した。

気仙沼市実践事例発表資料

幼児教育の推進体制構築事業 気仙沼市の取組



宮城県気仙沼市教育委員会

取組の背景

幼稚園・保育所の新たな制度づくり

- 旧気仙沼市には市立幼稚園なし
- 旧唐桑町には町立幼稚園3園

2006年合併
旧唐桑町幼稚園の運営体制で運営

- 旧本吉町には4つの町立幼稚園

2009年合併
旧本吉町立幼稚園はそのままの運営体制を残す

取組の背景

旧町がそれぞれの運営の 仕方です運営を継続

唐桑
教育センター

本吉
教育センター

市教育委員会の指導体制整備の遅れ

東日本大震災の発生



幼児教育推進体制づくりの遅れ

- 復興第一
- 居住の確保
- 仕事の確保
- インフラの整備

・幼児教育は・・・

3年前(2015)の気仙沼市 教育委員会

公立幼稚園

公立保育所
保育所型
こども園
認可私立保育所・保育園

私立幼稚園

私立保育所・保育園

気仙沼市の保育・幼児教育

気仙沼市教育大綱(2015年～)

基本理念

- 人を思いやる優しさと高い倫理感、豊かな感性
～幅広い人間性の涵養～
- 自立し創造的に生きていく力
～未来への飛躍を実現する生き方～
- 郷土に貢献し、世界で活躍するためのグローバルな視点
～社会の担い手づくり～

気仙沼市の保育・幼児教育

気仙沼市教育大綱

基本方針

- 知・徳・体の調和のとれたたくましく、
しなやかな子どもを育む教育の推進
- 気仙沼ならではの資源と環境を生かした
学習機会の創出
- まち全体で子どもを育む教育環境づくり
- 生涯にわたる多様な学習機会の提供

気仙沼市の保育・幼児教育

基本目標

- 学ぶ力と自立する力の育成
- 豊かな人間性や社会性、健やかな体の育成
- 特別なニーズに対応した教育の推進
- 信頼に裏打ちされた魅力ある教育環境づくり
- 幼児教育の充実と家庭・学校・地域が協働して子どもを育てる**
- 地域の発展につながる生涯学習・社会教育の推進

気仙沼市の保育・幼児教育

子どもたちを取り巻く家族や地域の現状


震災後の住居や就労環境の変化

- 核家族の増加
- 親子の愛着形成の課題

- 話をしっかり聞けない 我慢ができない
- 他の子どもと上手にかかわれない
- 個人差が大きい 手先の不器用さ

幼児教育推進体制構築事業の開始

大綱に掲げた目標を達成するため
現状を大きく変える必要




平成28年(2016)

学校教育課が中心となり、文部科学省委託事業
「幼児教育推進体制構築事業」スタート

目指したもの

気仙沼市全体の幼児教育 を考え、幼児教育を 充実するための体制づ くり



初年度(平成28年度)の取組

幼児教育アドバイザーの配置

- 幼稚園の経験者+保育所の経験者
- 豊富な知識・経験
- 人柄

・+α

手探りの前進

- 幼児教育推進室の設置
- 幼稚園・保育所の現状把握
- 幼児教育研究会の発足

見えてきた展望

職員の質を高める研修の機会
幼保が連携した取組
教育・保育の相談
小学校入学前の保育・・・

必要とされている実感へ

2年目（平成29年度）の取組

(1) 幼児教育指導体制の整備

① 幼児教育コーディネーター※のスキルアップ
各種研修会参加
幼児教育施設先進地等の視察
大学の附属幼稚園公開研究会や
フォーラムへの参加

② 教職員対象スキルアップ研修会の企画・実施
市内幼保対象に、幼児教育スキルアップ研修会
※この年から、幼児教育アドバイザーではなく、
幼児教育コーディネーターとした。

2年目（平成29年度）の取組

(2) 幼保小連携事業の体制づくり

① 幼保小連携の促進
小学校区毎に幼保小担当者が集まる場
交流計画立案
(幼児教育コーディネーターの助言)

② 幼保小接続・連携研修会
市内の全幼保小職員を対象

2年目（平成29年度）の取組

(3) 調査研究

① 幼児教育コーディネーター小学校訪問

② 幼児教育コーディネーター保育所・幼稚園訪問

幼保小の連携の現状
小学1年生の現状 保護者の対応の課題

現状と課題を聞き取り、必要に応じて助言・支援
調査研究実行委員会に諮り協議

開かれてきた扉

- ・ 研修⇒公立・私立の幼保施設がともに参加
- ・ 訪問⇒コーディネーターの役割への理解
小学校の理解と協力
- ・ 調査⇒保護者の協力

↓

小学校と幼保施設の距離が近づく

3年目（本年度）の取組

しっかり知る
幼児教育が求められていること

考えさせる
幼児教育施設職員として何をすべきか

皆でやってみる
アプローチカリキュラムの作成

円滑な小学校への接続を
目指して

市内全ての幼保小施設訪問の継続

保護者アンケート調査の実施
(入学前と入学後の不安の把握)

- ・ 就学前保育の見直し
- ・ スタートカリキュラムの改善



アプローチカリキュラム
作成委員会設置

市内全体のひな形（モデル）を
みんなで作成

目的

- カリキュラムの必要性の周知
- 作成経験を各施設への還元
- 幼保小連携の推進強化

学びが力に

ここ数年、年長児の課題が増えているような気がするので、
このような研修の機会が必要だと思う。
自分の施設のことしか分らなかったが、この取組によって、
市内の他の施設の様子を知ることができてよかった。

市内全体の幼児の様子や家庭環境など、幼児の現状が分
かった。

小規模保育所
アプローチカリキュラムからスタートカリキュラムへの幼保小
が連携していくなかで、同じ目的をもって作成していくことは
大事だと思っている。このようにみんなの力をいっただきながら
作成していくことは、小規模の保育所のように人数が少ない
ところでは支えになる。

確かな足跡

1 幼児教育コーディネーター配置の効果

(1) 小学校教諭の幼児教育の理解

(2) 小学校と幼稚園と幼稚園の
連携や協力の促進

(3) 市内の公立幼稚園・保育所の
職員の資質向上

確かな足跡

2 幼児教育推進室設置の効果

(1) 幼児教育推進室を設置
幼児教育に関する相談の窓口

(2) 宮城県との連携
教育企画室の「学ぶ土台作り」担当者との連携
県の幼児教育推進の情報を市の取組に生かす

(3) 大学等専門的な知識の活用
宮城教育大学やお茶の水大学等の専門機関と
の協力・連携

確かな足跡

3 幼児教育推進の意欲の高揚

(1) 調査研究実行委員会を設立
公立幼稚園と私立幼稚園の園長代表も加えて組織

市の幼児教育の方針等の理解が、
公立・私立の別なく各保育所・幼稚園に浸透

(2) 小学校入学までに育てたい姿を共有
公立・私立の別なく各保育所・幼稚園の
研修の必要性の理解

市内の公立・私立の幼稚園・保育所の参加の研修会の開催

確かな足跡

4 幼保小連携に向けた具体的な取組の増加

(1) 気仙沼市アプローチカリキュラム作成委員会
気仙沼市のモデルとなるアプローチカリキュラムの作成

(2) 幼保小連携・接続研修会
市内の全小学校職員と保育所・幼稚園等の職員が集う

(3) 年長児が入学する小学校を訪問する体験の増加

(4) 小学校と幼稚園職員の保育及び授業参観の増加

課 題

① 幼児教育に専門的取り組み職員の配置

② 幼児教育推進拠点としての機能をもつ推進室
設置

③ 保育士が参加しやすい研修参加体制の工夫

④ 私立幼稚園と小学校の連携体制づくり

⑤ 地域の特徴を生かしたアプローチカリキュラム
とスタートカリキュラムの作成

⑥ 調査研究結果を具体的に改善に生かす

アプローチカリキュラム作成委員会

アプローチカリキュラム作成委員会実施日程

期 日	内 容	各施設研修
5月25日(金)	第1回アプローチカリキュラム作成委員会 1 研修 (1) 市の保育・幼児教育の基本理念を踏まえたアプローチカリキュラムの作成 (2) アプローチカリキュラムの作成 2 グループ討議 「年長児の実態について」 他	
7月27日(金)	第2回アプローチカリキュラム作成委員会 (1) 年長児の課題についての協議 ① 各施設の情報交換(小グループ) ② グループでの課題の整理 ③ 全体での年長児の課題の共有 (2) 気仙沼市アプローチカリキュラムにおける育てたい力の設定 ① グループ(育てたい力の3つの項目ごと)による育てたい力の協議 ② グループの考えへの意見交換 ③ グループで協議した育てたい力の提示 ④ 全体での決定・課題検討	<ul style="list-style-type: none"> ・アプローチカリキュラムについて報告, 共有 ・課題検討 ・期のねらい検討(年長児)
10月26日(金)	第3回アプローチカリキュラム作成委員会 (1) 各園・所の主な活動・体験の配置についての検討 (2) 「幼保連携型・気仙沼認定こども園」を想定したアプローチカリキュラム作成	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動について検討
12月8日(火)	第4回アプローチカリキュラム作成委員会(1) 気仙沼市アプローチカリキュラムモデルの検討 (2) 気仙沼市アプローチカリキュラムモデルの活用の仕方の検討	
1月28日(月)	調査研究実行委員会へのアプローチカリキュラム気仙沼モデルの提示と意見聴取	
2月	気仙沼市アプローチカリキュラムモデルの作成に向けた最終的な検討	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育推進室で検討
3月	「アプローチカリキュラムモデル(気仙沼市版)」のリーフレット作成と配布	

平成30年度 第1回気仙沼市アプローチカリキュラム作成委員会

日時 平成30年5月25日(金)
午後2時30分～

会場 中央公民館 会議室3・4

【研修内容】

- (1) 市の保育・幼児教育の基本理念を踏まえたアプローチカリキュラムの作成
学校教育課 副参事(指導主事)小野寺 裕史
- (2) アプローチカリキュラムの作成について
気仙沼市幼児教育コーディネーター
- (3) グループ討議 「年長児の実態について」 他

平成30年度 第2回気仙沼市アプローチカリキュラム作成委員会

日時 平成30年7月27日(金)
午後2時30分～

会場 中央公民館 会議室3・4

【協議内容】

- (1) 年長児の課題について
- ① 各施設の情報交換(小グループ)
 - ② グループでの課題の整理
 - ③ 全体での年長児の課題の共有
- (2) 気仙沼市アプローチカリキュラムにおける育てたい力の設定
- ① グループ(育てたい力の3つの項目ごと)による育てたい力の協議
 - ② グループの考えへの意見交換
 - ③ グループで協議した育てたい力の提示
 - ④ 全体での決定

平成30年度 第3回気仙沼市アプローチカリキュラム作成委員会

日時 平成30年10月26日(金)
午後2時00分～

会場 中央公民館 会議室3・4

【協議内容】

- (1) 各園・所の主な活動・体験の配置について
- ① 作成した自園・所の「主な活動・経験」を伝え合う
 - ② 共通点や相違点を見つけ、互いに質問し合う。
 - ③ 自園・所に取り入れたいことがあれば確認し合う。

(2) 「幼保連携型・気仙沼認定こども園」を想定しアプローチカリキュラムを作る。

- ① グループの中で、一番人数の多い園・所を参考に「主な活動・体験」を入れる。(付箋に書いて貼る 以下の作業も同じ)
- ② グループで「環境構成・援助・留意点」「幼保小連携」「家庭・地域との連携」を入れる。(各グループスタートの順が別になる)

平成30年度 第4回気仙沼市アプローチカリキュラム作成委員会

日時 平成30年12月8日(火)

午後2時00分～

会場 中央公民館 会議室3・4

【協議内容】

- (1) アプローチカリキュラム気仙沼モデルの作成
 - ① 前回の委員会で作成したカリキュラムをもとに、修正点を話し合う
 - ② グループで修正点をもとに改善案を出し合う。
 - ③ グループ毎にアプローチカリキュラムを完成させる。

＜アプローチカリキュラム作成に関する気付き＞

1 カリキュラム作成における留意点

- (1) みんなでつくる(施設のみんなの声と考えで作成する)ことが大切
- (2) 保育指針・幼稚園要領に沿ってつくる
- (3) アプローチカリキュラムは到達ゴールを目指すものではない
- (4) 保育所と幼稚園で共通する部分と違う部分があってよい
- (5) 個への配慮を大切にする
- (6) モデルはモデル。参考にして各施設の実態に合わせて作成すること
- (7) クラスの実態によって変わるもの(だから毎年見直しが必要)

2 課題として見えてきたこと

- (1) 小学校のスタートカリキュラムとの連続性をどう確保するか
- (2) 各項目のとらえ方の理解が不十分(どんなことを入れたら良いか曖昧)
- (3) ねらいや環境構成を設定する時期
- (4) 複数の小学校に入学する施設の小学校との連携計画
- (5) 家庭との効果的な連携の仕方

< 作成時に課題と感じた事項（第3回目までの感想から） >

◎作成時に迷った項目

1. 全てがなにがしかの項目と関わっているの、どの項目に当てはまるのか迷った。
2. 活動を振り分けるのにどの項目に当てはまるのか戸惑った。
3. 保育活動は全てに絡んでいるので分野に分けて考えていくことが難しい。
4. 項目が重なり合うと感じた。例えば『きまり』と『心身の自立』を分けて考えることが難しい。

◎文章表現・文言について

1. 普段やっている活動や保育を言葉・文章にして表現することが非常に難しい。
2. ひとつひとつのことを短時間でひとつの言葉にすることが難しかった。
3. 環境構成、援助、留意点とそれぞれの言葉使いが異なるため表現が難しかった。
4. 環境構成、援助、留意点で、全体的に一つの文章にしたら良いか、どこで区切るか迷った。
5. 全てを取り入れようとすると文章が作りにくい。
6. 短文で簡潔に表現するのが難しかった。
7. 「〇〇しようとする」ためにどのようにアプローチしていったら良いのか細かい言葉の使い方、文言が難しかった。

◎項目の捉え方・視点のおき方

1. 幼保小連携活動についての記入は、実際に取り組んでいるとアプローチにいれやすいが、ほとんど取り組まれていない場合は保育所としての理想で入れて良いのか戸惑った。
2. 現在勤めている“所”の子どもの姿をもとにしたところから仮称「こども園」として大きく捉えた「環境構成・援助・留意点」を打ち出していくことが難しい。
3. どこに基準を合せていけばよいのか分かりにくい。
4. 環境構成・援助・留意点の言い回しが難しかった。
5. 環境構成を月毎に入れるのと、何月にステップアップした援助にするのが難しい。
6. 各項目のとらえ方・視点をどこにおいたらよいのか迷いました。他の施設の先生方の話を色々聞くことができ参考になりました。
7. 環境構成・援助などの時期に当てはめていくのか悩んだ。

◎その他

1. 地域の施設形態が違うので、意見を統一するのに難しい点があった。
2. みんなの意見をまとめていく作業に時間を費やした。全部まとめようとすると難しい。
3. 年長2名の担当で集団ととらえることが難しく、小規模として考えているため困惑している。
4. 一つの項目について、各施設に合わせた内容をよく考えて作成していきたい。
5. 学区内・学区外の子がいる中で基本的な生活習慣の保護者への啓発や配慮が難しいと感じた。
6. 「生活適応」「心身の自立」の表記の理解が難しいと思った。
7. 初めての事だったので全てが難しく感じたが、たくさんの意見を聞くことができ次年度以降に向けとても良い経験となり参考になった。

第4回 アプローチカリキュラム作成委員会 委員の声

Q. 気仙沼市アプローチカリキュラム作成を通じて感じた事や意見

回答者所属施設：公立 認可保育所・認定こども園

- ・就学を目前とした子ども達、幼保小の連携について色々と考えさせられた。
課題もあり大変だったが、他の施設の意見を聞いたり、施設内の先生の思いを改めて知る良い機会となった。
ありがとうございました。
- ・全4回のアプローチカリキュラム作成委員会に参加させて頂き、各保育所、幼稚園の方の様々な意見や、考え方を聞くことができ、とても勉強になりました。
施設に持ち帰り、今回の話し合いで学んだことを基に、施設のカリキュラムを皆で作成したいと思います。
- ・単独ではなかなか取り組めないのも、とても良い機会となりました。ありがとうございました。
- ・各回ごとに、新たな課題があり、とても頭を悩ませました。
でも、本気になって考えたり、先生方と話し合う機会が出来て良かったです。
この一年の取り組みを基に、次年度以降さらに良いカリキュラムが作れたら、子ども達も良い方向にすくすく成長することが出来るのだと思うと、本当に良かったです。
- ・市内の公立、私立の園、所が一同に会して、アプローチカリキュラムについて話し合い、情報交換もでき、大変良い機会となりました。
小学校の先生方とも会える機会が持てると、更に子どもの育ちについて考え、良い保育教育のもととなる話し合いが出来るのかなあと思いました。
- ・普段このような機会がないので、他施設の先生方と密に話し合うことができ、とても貴重な体験をさせていただきました。
難しいことも多々ありましたが、とても勉強になりました。
ありがとうございました。

回答者所属施設：公立 小規模保育所

- ・市の保育所、幼稚園全体で話し合っただけで出来たことに意義があると思います。
それぞれの問題や実態を知る事ができて、とても勉強になりました。
コーディネーターの先生方には、膨大な意見をまとめて頂きありがとうございました。
- ・市内で実践していく学校区の事例を基に作成につなげていく手順を踏んでもよかったのではないかな…と思いました。
非常に見やすいものを利用していたので、その流れも知りたかったと思いました。
- ・とても有意義な時間となりました。ありがとうございました。

- ・色々と考える台となりました。
一人だけでは行きづまりそうなことも、様々な意見を出し合う中で糸口が見つかったような気がします。
このような機会を設けて頂き、良かったと思います。
- ・「気仙沼モデル」の作成に関わらせて頂き、大変光栄でした。
また、改めて勉強する機会を与えて頂き、貴重な経験になりました。
ありがとうございました。

回答者所属施設：公立 幼稚園

- ・いろいろな施設の先生方と話し合いを重ね作成できたことはとても良かったと思います。
表現等、考える点は多くあり、できればもう少し時間が欲しく、じっくりと取り組みたかった思いも残りますが、園でまた検討していきたいと思います。
- ・気仙沼の子どもたちにとってより良いものとなり、現場で活用できるものが出来たのではないかと思います。
- ・保育所、私立幼稚園の先生方と話す機会にもなり、新しい気付き、広い考えを得ることが出来ました。
今後もこのような機会があればと思います。
- ・アプローチカリキュラム作成は難しかったですが、保育所や保育園の先生方と色々な意見を出し合っていくことで、勉強させていただきました。
顔見知りにもなり、楽しかったです。
自分の園のアプローチカリキュラム作成に向けて、また頑張っていきたいです。
お世話様でした。
- ・市内の幼児教育に関わっている先生方が集まる機会はとても貴重なものでした。
今後は、幼・保だけでなく、小学校とのつながりが深まる機会もあるといいなあ…と思いました。
いろいろと勉強に機会をいただきました。
大変ありがとうございました。

回答者所属施設：私立 認可保育所

- ・“作らねば…”と思いつつ、中々取り組めずにいたので、今回、市内の先生方と一緒に一つの“モデル”を作り上げていった行程は、とても貴重なものとなりました。
ここで終わりではなく、これを生かしながら、自分の施設の色を加えていきたいと思います。
大変な所もありましたが、感謝の気持ちでいっぱいです。
ありがとうございました。

回答者所属施設：私立 認可外保育所

- ・気仙沼市の子どもたちは、どの施設においても同じ気仙沼の子たち。
各施設で共通の認識や理解を共有できる良い機会だと思いました。
- ・気仙沼市の各施設がそろって、ゆったりと話を出来るとても良い機会になったと思う。
今回のアプローチカリキュラム作成を通して、改めて子ども達に育ってほしい姿が浮き彫りになってとても良かった。

回答者所属施設：私立 幼稚園

- ・これまでアプローチカリキュラムについてじっくり考える機会がなく、今回の委員会に参加させて頂く事で視野を広げて取り込むことが出来ました。
難しいところや保育所さんとの違いも感じながら進めてきましたが、とても良い機会となり、交わり、情報交換等もできたことを嬉しく思います。
自分の園でどのように進めていくかを、園内で話し合いながら、より良いカリキュラムが作成できるよう努めたいと思います。
- ・“小学校へ送り出すまで、色々な課題があるな”と改めて資料を見て感じました。
幼・保側からは相談しここまで来たが、小学校側から見て、本当にこれで大丈夫なのだろうかと不安はある。
丈を考えるのが難しかったです。
- ・他の先生方の貴重な意見が伺えて、とても充実した研修となった。
年長担任の参加であれば、尚、意見が私たちの気付かないこと、細かいものとなったのではないか。
園内でもう一度話し合い、確認したいと思います。
- ・共通した方向性が見えて来たので、良かったと思います。

幼保小接続期カリキュラム（気仙沼モデル）

アプローチカリキュラム			スタートカリキュラム		
≪保育所・幼稚園≫ ≪ 幼児期の終わりまでに育てたい子どもの姿 ≫			≪小学校≫		
<ul style="list-style-type: none"> ●自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かし、自ら健康で安全な生活を作り出そうとする ●いろいろな活動や遊びにおいて、自分の力で最後まで取り組み満足感や達成感を持つ ●相手の話を聞いて分かったり、じぶんの思いや考えなどを相手に分かるように伝えようとする ●友達とのかかわりを通して、心を通わせながら一緒に遊びを進めようとする ●共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして力をあわせてやりとげようとする 			<ul style="list-style-type: none"> ◆主体的に学ぶ ◆学習意欲がある ◆コミュニケーション能力がある ◆自分や友達の良さに気付く ◆思いや願いを持つことができる 		
課 題	・食の偏りや生活リズムの乱れなど、基本的な生活習慣が定着しにくい				
	・難しいことに直面すると、始める前から「できない」とあきらめたり、手伝いを求めることが多い				
	・友達に自分の思いを言葉で伝えることができる反面、相手の思いを受け入れようとせずトラブルになりやすい				
	・自己中心的な子が多く、相手を認め思いやる気持ちより、責めてしまいがちである				
	・友達とのかかわりを苦手とし、同年齢の友達より大人とのかかわりを持ちたがる				
	・少人数により、集団遊びやグループとしての活動が経験しにくい				
育 て た い 力 （三つの芽生え）	生活する力	〈健康な生活〉 ・好き嫌いなく、みんなと一緒に食べることを楽しむ			
		・安全に注意しながら、十分に体を動かす心地よさを味わう			
		〈生活への適応〉 ・生活習慣を身に付け、行動する			
		・遊んだものや場所をかたづける			
	かかわる力	〈心身の自立〉 ・時間的見通しをもって生活する			
		・自分から取り組んだことをやり遂げようとする			
		〈人のかかわり〉 ・友達に思いやりをもって接し、仲良くする			
		・園内外の様々な人と交流し、親しみをもつ			
	学びの力	〈きまりを守る〉 ・生活や遊びの中で、自分たちのきまりを守ろうとする			
		・みんなで使う物を譲り合ったり、大事に扱ったりする			
		〈言葉で伝え合う〉 ・友達と一緒に行動し、気持ちを共感する			
		・自分の思いを相手にわかるように伝え、相手の思いを聞いてわかろうとする			
学びの力	〈豊かな体験〉 ・考えたことを試したり、工夫したりする				
	・生き物への愛着を感じ、生命をたいせつにする				
	〈豊かな表現〉 ・わからないことや知りたいことを聞いて理解する				
	・自分の考えやイメージをかいたり、作ったり、歌ったりして表現する				
学びの力	〈文字、数への感覚〉 ・絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わう				
	・遊びの中で数や量を比べたり、多様な形に興味をもったりする				

育てたい力をもとにしたアプローチカリキュラム

		月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	スタートカリキュラム
		テーマ	みんなで力をあわせる			友達と共通の目的をもって活動する		小学校の生活や学習に興味を、もち就学への期待を高める		自分の成長を感じる		入学期の不安を和らげる
ねらい	こどもの姿	友達と協力する			友達と工夫して遊ぶ			生活や遊びに意欲的に取り組む				園や所に来て遊ぶ
		達成感を味わう	役割と責任をもつ	めあてを共有する	相手の話をよく聞き自分の考えたことを伝える	就学に向けての集団生活のきまりを守る		学校訪問や体験を通して期待をもつ		学校の話をする		
				小学校生活を知る	決まった時刻に起床・睡眠	健康的な生活リズムをつくる						
環境構成・援助	生活する力	健康 生活適応 心身自立	<ul style="list-style-type: none"> ・のびのびと体を動かす心地よさを味わわせながら、安全に対する意識を高める ・体験を通して様々な食材に興味がもてるようになる ・自分で衣服の調節や身支度ができるようにする 				<ul style="list-style-type: none"> ・健康の大切さがわかり、手洗いうがいを進んで行えるようにする ・使った物や場所を整える心地良さを感じ、自主的に片付けしやすい環境を整える ・やり遂げた達成感を味わい自信につながるようにする ・時間を意識し、見通しをもって生活できるようにする ・一定時間内で食事ができるようにする 					
	かかわる力	かかわり きまり 伝える力	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの良さを認め、一緒に活動する喜びを味わえるようにする ・地域の人との交流の機会を設ける ・友達と協力して、共通の目的に向かってやり遂げられるようにする ・遊びや生活の中で、ルールやきまりに気付かせ守ろうとする気持ちをもたせる ・自分の思いを相手に伝えられるようにする 				<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの生活を振り返り、様々な人に感謝の気持ちができるようにする ・友達や周囲の人の話を聞き、その思いを受け止められるようにする 					
	学びの力	体験 表現 文字・数	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の歌や年齢に適した歌を友達と一緒に楽しく歌えるようにする ・好奇心が芽生えるような体験活動を工夫する ・絵本や物語を多く取り入れ、想像する楽しさを味わわせる ・日常生活の中で、文字や数字に触れられる環境づくりをする 				<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への参加や交流活動等を通して、学校への親しみや期待をもたせていく ・自由にイメージをふくらませながら表現遊びが楽しめるような環境を整える ・遊びや生活の中で感動を共有し、友達と一緒に考えながら様々な表現を楽しめるようにする 					
連携	幼保小	保育・学習生活相互理解	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会行事参加(交流活動)・一年生との交流 ・学習発表会見学 		<ul style="list-style-type: none"> ・給食体験 ・一日入学 		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員との意見交換会 ・保育者の授業参観と小学校教員の保育参観 ・園だより配布(毎月) ・アンケートを実施し、入学前の不安をとらえる 		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への引き継ぎ連絡会 ・個人面談、就学時健康診断、一日入学等の様子やアンケート結果を小学校に伝える 			
地域との連携	家庭	基本的生活習慣 保育理解 不安解消	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の定着に向け、家庭との共通理解を図る ・保育内容や行事への取組の様子を、園だよりやクラスだより等で伝えていく ・地域の行事に参加したり、地域の方々を行事に招待したりしながら交流し、保育施設を知ってもらう ・個人面談や就学時健康診断、一日入学等の様子やアンケートの実施で入学前の不安をとらえる 				<ul style="list-style-type: none"> ・就学に向けての生活習慣を再確認し、保護者と連携して取り組む 					
主な活動・行事	ごっこ遊び	お祭りごっこ	運動会ごっこ	お店屋さんごっこ	ハロウィンごっこ	発表会ごっこ	お正月ごっこ	郵便ごっこ	学校ごっこ			
	体験活動	プール活動	郵便教室	⑤児童会まつり	地域世代間交流		正月行事体験	⑤一日体験入学	学区内保育交流			
	栽培活動		収穫体験	花苗植え	冬野菜収穫		⑤給食体験					
	見学活動		地域見学、交流見学	⑤学習発表会	職場訪問	施設慰問	⑤授業参観		図書館見学			
	園行事		運動会	秋の遠足		生活発表会		節分	ひなまつり			
	訓練		避難訓練(毎月:各種災害及び不審者対応等)				クリスマス会		卒園式、退所式			

小学校のスタートカリキュラムに接続

「幼児教育の推進体制構築事業」報告（平成28年度～平成30年度）

調査研究テーマ	幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究
調査研究目的	市において質の高い幼児教育を提供するにあたり、市内幼稚園（含：私立幼稚園）、保育所（含：私立保育所）等における課題を把握するとともに幼児教育の推進体制を構築し、その対策を打ち立て指導に役立てる。
調査研究課題	幼児教育アドバイザーを設置し、 ◇ 幼稚園、保育所で日常的に生じている養育課題、環境、指導、連携の観点から改善すべき要点を分析調査し、より実効的に幼児教育の質的改善を図る。 ◇ 幼稚園、保育所から小学校への円滑で教育効果の高い接続を目指し、幼保間、幼小間、保小間での連携による組織体制を構築し、体系的・実地的な研修を通じて初等教育に対する教諭、保育士の識見と資質能力を向上させる。 ◇ 行政及び大学等とともに連携し、幼保一元化など時代要請に対応した全市的な子育て支援の在り方を探る。
実施期間	平成28年5月20日～平成29年3月31日 平成29年4月13日～平成30年3月30日 平成30年4月12日～平成31年3月29日
事業担当課	気仙沼市教育委員会学校教育課

【基礎情報】

① 規模															
人口			63,778名（平成31年1月30日時点）												
② 幼児教育関連業務の担当部署															
担当部署		学校教育課				業務内容（業務分担）				事業、決算					
一元化の有無		無				一元化の開始時期				検討中					
一元化した部局		-													
③ 幼児教育センター（名称：幼児教育推進室）（H30年度）															
設置年度		平成28年8月設置				設置形態		組織として設置							
設置場所		気仙沼市中央公民館3階				人数		4名（うち、常勤0名、非常勤4名）							
主な業務内容		・幼児教育指導体制の整備 ・幼保小連携事業の体制づくり ・調査研究													
④ 幼児教育アドバイザー（H30年度）															
名称		人数（単費内訳）				雇用形態				主な経歴					
幼児教育コーディネーター		4名				謝金（4名）				公立園長経験者2名 公立保育所長経験者1名 子ども家庭課（行政）経験者1名					
主な業務内容		・幼児教育指導体制の整備 ・幼保小連携事業の体制づくり ・調査研究													
派遣対象地域		全域													
⑤ 全幼稚園数、認定こども園数、小学校数、保育所数（園）															
※ 幼稚園・小学校：平成30年5月1日現在、認定こども園・保育所：平成30年4月1日															
幼稚園						幼保連携型 認定こども園			保育所				地方裁量型 認定こども園		小学校
うち、幼稚園型 認定こども園									うち、保育所型 認定こども園						
10園			0園			0園			11園		1園		0園		15校
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	
0	6	4	0	0	0	0	0	0	9	2	1	0	0	0	

【調査研究の目的、内容、成果及び今後の課題】

<p>1. 事業受託前の取組状況</p> <p>気仙沼市は、平成18年に唐桑町、平成21年に本吉町との合併を行った。保育所に関しては、合併後に新設した子ども家庭課が所管し、幼稚園については教育委員会が所管した。教育委員会と子ども家庭課が双方で幼児教育について協議する場はなかった。</p> <p>市として主催する幼稚園教諭や保育士を対象とした幼児教育の理解・技能向上に関する研修の機会は少なく、現場で学ぶことが中心であった。特に、保育士に関しては、少ない状況であった。</p> <p>また、幼児教育という観点で事業を行い、幼稚園と保育所を統括する部局はなく、幼保の連携は十分に図られていなかった。</p> <p>公立と私立の幼稚園間の交流機会も少なく、私立幼稚園は独自の組織を形成し、職員研修を行っていた。こうした状況のところ東日本大震災が発生し、市全体の幼児教育推進体制の整備よりも、被災した保育施設等の復旧等に重点が置かれた。</p> <p>このような状況のなかで、宮城県の「学ぶ土台づくり」推進事業が始まり、その研修会等には公・私立の別なく参加できたことで、幼児の現状や課題について意見交流をする機会が生まれ、共に「学ぶ土台」について考え、その効果を感じる保育士や教諭が増えてきた。</p>
<p>2. 事業を受託した経緯</p> <p>平成25年には、気仙沼市震災復興計画が策定され、平成27年度には気仙沼市教育大綱が制定された。この中で、将来の気仙沼市を担う人材の育成のためには、幼児教育の充実が必要であることが示され、市として、幼児教育推進体制構築に向けた取組を進めていくこととした。</p> <p>そうした折に、本事業の募集があり、学校教育課が中心となり3年間の取組を行い、その成果を市の施策に反映させたいと考え本事業を受託した。</p>
<p>3. 調査研究の目的及び内容</p> <p>(1) 目的 本市の幼児教育の質の向上を目指し、市内幼稚園（含：私立幼稚園）、保育所（含：私立保育所）等における課題を把握するとともに幼児教育の推進体制を構築し、その対策を打ち立て指導に役立てる。</p> <p>(2) 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児教育推進室の設置 <ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育アドバイザーを委嘱と教育委員会内への幼児教育推進室設置 ② 幼児教育指導体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育アドバイザースキルアップ ○教職員対象スキルアップ研修会の企画、実施（幼児教育アドバイザー又は講師を招いての研修会） ③ 幼保小連携の体制づくり <ul style="list-style-type: none"> ○小学校区毎に幼保小担当者が集まる場の交流計画を立案 ○気仙沼市として5歳児を対象としたアプローチカリキュラムの作成に係る研修及び会議開催。 ○市内の公立・私立幼保小職員を対象とした「幼保小連携」研修会開催 ④ 調査研究 <ul style="list-style-type: none"> ○調査研究実行委員会の設立と会議開催 ○幼児教育アドバイザーによる5歳児と小学校1年生の現状と課題の把握
<p>4. 3年間の取組・成果・課題</p> <p>(1) 3年間の取組</p> <p>平成28年度は、幼児教育推進室を8月に設置し、4名の幼児教育アドバイザー（29年度から幼児教育コーディネーターとして活動）が市内の全幼稚園、保育所を訪問し、各園の抱える課題等の調査を行った。幼児教育コーディネーターは、以前、幼稚園長や保育所長等を経験しており、公立・私立を問わず幼児教育施設職員との面識があったことから、訪問調査に関する受け入れが容易であり、調査に関しても丁寧に回答を得ることができた。調査結果を踏まえ、関係各機関及び有識者による調査研究実行委員会を実施し、「職員の研修機会の確保」や「小学校との連携・接続」に関し共通の課題を共有し、次年度の方向付けを行った。</p> <p>平成29年度は、前年度に各園から聞き取った内容を集計し、訪問指導に活用した。幼児教育施設に加え、市内の全小学校の訪問と授業参観等を行い、学習及び生活状況を把握した。このことにより、本事業に対する理解や協力を得ることができた。「小学校との連携・接続」の課題に対しては、幼保小の職員を対象とした連携研修会を2回開催し、幼児教育施設から小学校への円滑で教育効果の高い接続について学んだ。「職員の研修機会の確保」の課題に対しては、幼児教育施設の職員を対象としたスキルアップ研修会を開催した。</p> <p>平成30年度は、2年間の取組を生かし、幼児教育指導体制の確立と幼保小連携事業の体制づくりを進めた。</p> <p>3年間の具体的な内容は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幼児教育指導体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ○幼児教育コーディネータースキルアップ 「秋田県わか杉っ子！育ちと学び支援事業」フォーラム、幼児教育施設先進地視察・秋田県大仙市、宮城教育大学附属幼稚園公開研究会、「学ぶ土台づくり」研修会、幼児教育の推進体制構築事業研修会及び意見交換会、お茶の水女子大附属幼稚園および文京区立お茶の水女子大学こども園視察、お茶大こどもフォーラム、宮城県のアドバイザー連絡協議会（情報交換）などへの参加などを通じて、幼児教育推進体制を学んだ。その成果を生かし、気仙沼市の幼児教育推進体制の課題について、学校教育課担当指導主事や子ども家庭課職員と協議した。 ○教職員対象スキルアップ研修会の企画、実施（講師を招いての研修会） 幼児教育施設職員対象に、幼児教育スキルアップ研修会、初任者層研修会を開催した。幼児教育コーディネーターは、私立幼稚園連合会や学校教育課及び子ども家庭課との連絡・調整や会場の調整などを行うとともに、当日の研修の運営にも加わった。さらに、事後のアンケート調査を行い、研修の成果と課題の把握に努めた。 幼児教育スキルアップ研修会は、「こどもと表現」「子どもの育ちと理解」をテーマに、教育講話等を行い、市内の公立・私立の幼児教育施設の職員が参加した。平成30年度は、参加した職員のうち97%が「研修内容が良かった」と回答した。また、「これまでの保育、そして自分を振り返る時間となり。公立の先生方と話を交わす事もでき、大変有意義な講話の時間となった。」（私立幼稚園職員）、「クラスの子どもと愛着を築くために、先生ができること、忘れていたなと思ひ反省する部分もあり、明日から改めて実践していこうと思う。」（公立保育所職員）という事後の感想があるなど、自身の保育を振り返りながら子どもの育ちについての理解が得られる研修となった。公立・私立の情報交換が生まれたことも効果的だった。

初任者層研修会は、各施設の1～3年目までの保育士、教諭を対象とした保育参観とその後の振り返りを通して、自身の保育を見直すことにより、意識の高揚と実践力の向上を図ることをねらいとして行った。「あまり他の園さんの保育を見ることもできないので、貴重な1日になった。運動会シーズンで、練習の仕方・気持ちの盛り上げ方等、自分だったらこうしたいという思いや、自分では思いつかない工夫などもあり、今後に活かしていきたいと思った。」(幼稚園2年目)という事後の感想があるなど、初任者層のレベルアップにつながる研修となった。

② 幼保小連携の体制づくり

○小学校区毎に幼保小担当者が集まる場の交流計画を立案

幼児教育コーディネーターによる小学校訪問の機会に、小学校と幼児教育施設の連携に関する現状を把握し、情報交換をする機会を提案した。この取組により、市内全体として小学校と幼児教育施設が子供たちの実態や課題について話し合う機会が増加した。特に、私立の幼児教育施設については、小学校との距離が近づいたとの声が多くなった。

○気仙沼市として5歳児を対象としたアプローチカリキュラム作成に係る研修及び会議開催

平成29年度までは、アプローチカリキュラムについて、研修会などで大学教授等から学び、理解に努めた。平成30年度は、幼児教育コーディネーターを中心に、市内の公立・私立の幼児教育施設から1名ずつのメンバーで「気仙沼市アプローチカリキュラム作成委員会」を立ち上げ、研修や会議を通してアプローチカリキュラムを作成した。このアプローチカリキュラムを「気仙沼市アプローチカリキュラムモデル」として市内全域に周知し、各施設のオリジナルなアプローチカリキュラムの作成に生かすようにした。

○市内の公立・私立幼保小職員を対象とした「幼保小連携・接続研修会」開催(H28 0回、H29 2回、H30 2回)

「幼保小連携・接続研修会」は、幼児教育コーディネーターと学校教育課担当指導主事が連携・協力して企画し、市内の公立・私立の全幼稚園・保育所・小学校に参加する初めての研修会として始まり、幼児教育についての理解を深めるとともに、幼児期の教育・保育から小学校教育への円滑な接続の重要性を認識する機会となった。

参加者への事後のアンケートでは、「幼児教育の中で、教師の見取る力や子供たちの嬉しさや、戸惑い、様々な気持ちを受け止め共感する事の大切さを改めて教えて頂いた。」など、幼児期の教育・保育に関する理解の深まりとともに、「引き継ぎの際には、育て欲しい10の姿にあてはめて子どもの姿をとらえるのではなく、幼児教育で大切にしてきたことを踏まえながら、自分の言葉で、一人一人の為の教育が大切だとお話を聞いて改めて感じた。」「小学校区での話し合いだったので新入学児の課題や今後の交流活動について共有し、明確化された。もう少し話し合う時間が長いと良かった。2月以降の小学校との話し合いにつなげたい」「私たちが大切にすることが、見落としとしていた子供たちのつまづきを小学校の先生方と話す中で明確になった。その中で、幼稚園としてできることの展望も見えた気がする。園に帰り、じっくりと良く考え、援助していきたい。」など、接続に関する多くの気づきが生まれる研修会となった。

③ 調査研究

○調査研究実行委員会の設立と開催(H28 1回、H29 1回、H30 2回)

子ども家庭課及び教育委員会の行政担当者、幼児教育コーディネーター、市立幼稚園代表園長、市立保育所代表所長、私立幼稚園代表園長、大学教授で幼児教育に関わる教授等で調査研究実行委員会を組織した。

訪問調査やアンケート調査による幼稚園と保育所及び私立と公立の現状と課題(現職研修、幼児への指導)に基づいて、幼児教育関連施設の課題、幼保小の連携等について協議し、課題の解決に向けた具体策などを検討した。

④ 幼児教育コーディネーターによる5歳児と小学校1年生の現状と課題の把握

市内公立・私立幼稚園・保育所に訪問し、保育の様子、園・所経営の取組と課題等を聞き取るとともに、教諭・保育士への助言を必要に応じて行った。

また、市内全小学校を訪問し、幼保小の連携について(各小学校の取組状況と課題)、小学校1年生の現状について(学校生活における課題)、保護者の対応に係る課題等を聞き取るとともに、必要に応じて助言・支援を行った。

さらに、平成29年度に5歳児の保護者にアンケート調査を行い、小学校入学への不安等を調査し、平成30年度にその不安が小学校に入学しどのように変化したかについて調査を行った。同時に、小学校1年生担任に、児童の様子と幼保小連携についての意識調査を行い、市内の幼保小連携の課題を分析した。

⑤ 園内・所内研修の活性化

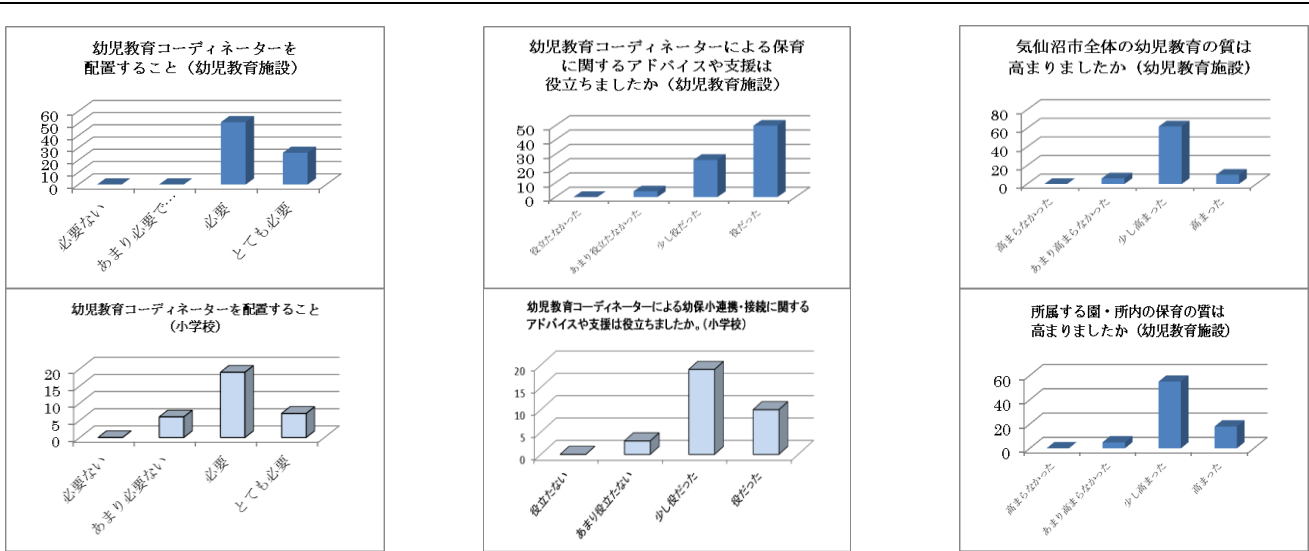
市内では、学校教育課と子ども家庭課で幼稚園と保育所の所管が違うことなどから、保育所と幼稚園の職員がそれぞれの施設で行われている保育活動を参観し合うことがほとんどみられなかった。このような状況は、本事業に取り組んだ2年目までも続いたが、市内の全幼児教育施設から参加する研修会が行われるようになったことを土台として、幼児教育の一層の推進のための学びの機会や連携が必要であるとの意識の高まりがみられていた。このことを一歩進め、幼児教育コーディネーターが企画・立案し、子ども家庭課と学校教育課の連携のもとに、保育所型認定こども園で、幼稚園教諭も参観して学ぶ取組が行われた。また、幼稚園の保育を保育士が参観して学ぶ機会も設けられた。特に、保育所型認定こども園で行われた公開保育と研修においては、公立・私立双方の幼稚園、保育所などの幼児教育施設職員15名が参加した。「保育の様子や、環境など、なかなか見ることができないので、今回は自分の保育の幅を広げるためにとても良い機会となった。公開する側にとっても、良い経験になると思う。」などの効果を感じる感想が多く、参加者の93%が内容が良かったと回答しており、参加者全員が今後も保育参観があったら参加したいと回答した。このように、幼児教育コーディネーターと学校教育課、子ども家庭課が連携し、今後も継続して開催することが望まれる研修を実施することができた。

(2) 成果

① 幼児教育コーディネーター配置の効果

小学校への訪問調査により、小学校教諭の幼児教育の理解が進んだ。また、小学校と保育所、幼稚園の連携や協力について、具体的な方法を提案したり、保育所や幼稚園の小学校訪問などを仲介したりするなどし、相互の連携が進んだ。このような実績から、幼児教育コーディネーターを配置することについて、幼児教育施設の職員では100%、小学校教職員は81%が必要であると回答しており、今後の継続的な幼児教育コーディネーターの配置が求められている。

また、市内の公立幼稚園・保育所の園長を含めた職員の状況や園・所としての実態及び課題の把握が進み、研修会やアプローチカリキュラム作成委員会など、幼児教育施設が必要としていた職員の資質向上につながる事業が展開できた。アンケートの結果では、幼児教育施設職員の93%が市全体の保育の質及び各園所内の保育の質が高まったと回答しており、幼児教育の質の高まりにも貢献することができた。



（アンケートは、平成30年11月に市内の全幼児教育施設と全小学校を対象に行ったもの）

【幼児教育施設及び小学校教員の声から】

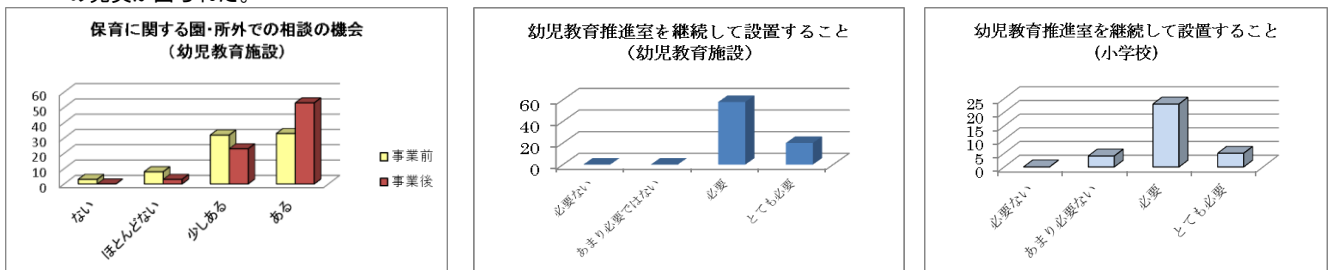
- 子どもの側から考えた幼小連携・接続が必要だと考えます。本校には、複数の幼稚園や保育所から入学してきますので、出身の幼稚園・保育所によって幼小の交流の経験に極端な差があると、経験の少ない児童にとっては不安を抱える要因になる恐れがあります。幼児教育コーディネーターの方々に、市内で現在実践されている、あるいは今後予定されている幼保小連携の実践を把握し、その情報を発信していただき、共有する場を設定していただく事が今後ますます重要になると思います。
- コーディネーターさんが、家庭での教育、しつけの大切さを話してくださると、若い担任から話されるより、説得力があって良いと思います。
- コーディネーターの先生方のご助言により、公立、私立の幼稚園、保育所の先生方との情報交換ではいろいろな状況を理解し合え、特に顔見知りになったことが良かったと思います。同じ足並みで進むことは難しい面もありますが、気仙沼市の子供たちのためにという想いは共有できたと思います。

② 幼児教育推進室設置の効果

幼児教育について、保育所を管轄する子ども家庭課と幼稚園を管轄する教育委員会でそれぞれに幼児教育の相談に応じていたが、幼児教育推進室を設置したことで、教育に関する相談の窓口の一本化が図られるようになってきた。このことに伴い、保育に関する園・所外での相談の機会について比較したアンケート（平成28年4月と平成30年11月の比較）では、事業前に「ある（あった）」は43%だが、事業後には70%となるなど、相談がしやすい体制が整ってきた。

幼児教育推進室の継続的な配置については、アンケートに回答して幼稚園・保育所など幼児教育施設の職員の全ての職員が必要であると回答するなど、市内の公立・私立を問わずその必要性が認識された。また、小学校教職員においても、88%が継続的な配置の必要性があると回答している。これらのことから、幼児教育推進室の設置による効果が実感され、継続的な配置が必要としていることが分かる。

幼児教育推進室が中心となり、学校教育課担当指導主事とともに宮城県教育企画室の「学ぶ土台づくり」担当者との連携を図り、県の幼児教育推進の情報や市の取組に生かすことができた。また、宮城教育大学やお茶の水女子大学等の幼児教育に関する専門機関との協力・連携が進み、研修内容の検討や実施、調査研究の進め方などの助言を得ることができるようになり、本市の幼児教育の推進体制の充実が図られた。



（アンケートは、平成30年11月に市内の全幼児教育施設と全小学校を対象に行ったもの）

【幼児教育施設及び小学校教員の声から】

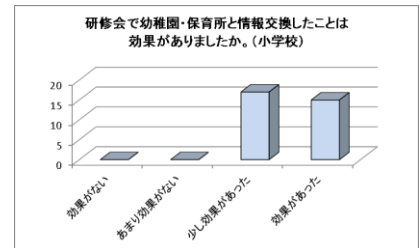
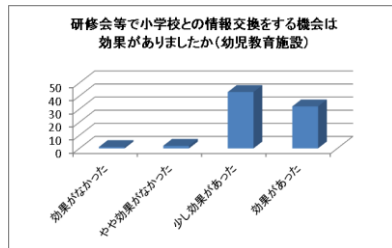
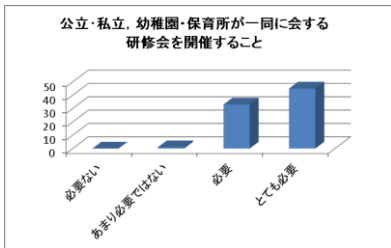
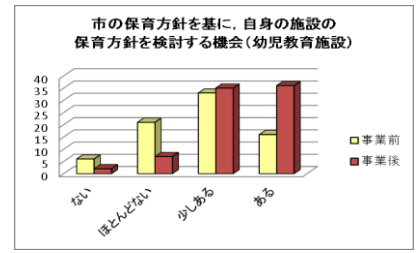
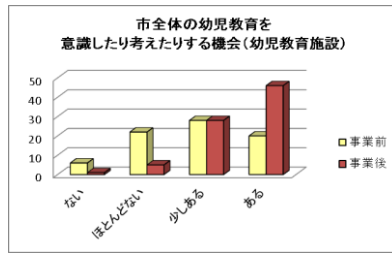
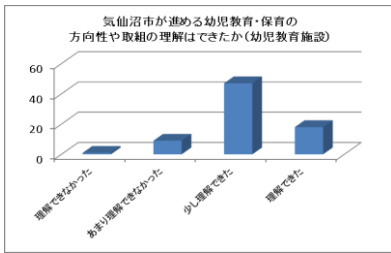
- 推進室の設置及びコーディネーターの配置は必要であると感じますが、引き受けてくださる先生方のご負担が大きいのではないかと。困った時に相談にのっていただける環境は大変ありがたいです。
- 講師の先生をお迎えしての研修や、小学校の先生との情報交換は非常に役立ちました。今後もぜひ研修会の開催をお願いしたいです。幼児教育コーディネーターの先生にお願いして、小学校見学へ行くことができたので、ぜひ今後も続けていただきたいです。

③ 幼児教育推進の意欲の高まりと知識の深まり

調査研究実行委員会を設立するにあたり、市が管轄する公立幼稚園と保育所の園長・所長代表のほか、私立幼稚園の園長代表も加えて組織した。この構成で幼児教育推進体制の充実に向けて会議を行ったことで、アンケートでは、市が進める幼児教育・保育の方向性や取組の理解について、「少し理解できた」「理解できた」を合わせた回答が87%となるなど、市として進める幼児教育の方針等の理解が、公立・私立の別なく各保育所・幼稚園に浸透した。市全体の幼児教育を意識したり考えたりする機会について比較したアンケート（平成28年4月と平成30年11月の比較）では、「ある」という回答が26%から58%となり、また、市の保育方針を基に自身の施設の保育方針を検討する機会についてのアンケートでも、「少しある」と「ある」の合計が、64%から89%になるなど、市全体の幼児教育の方針を意識したり、考えたりしながら、園や所内で検討する機会も増えた。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有することの重要性を説き、公立・私立の別なく各保育所・幼稚園の研修の必要性への認識と理解が高まり、市内ほぼ全ての公立・私立の幼稚園・保育所の参加のもとに研修会を開催することができた。公立・私立の幼児教育施設の職員が一同に会して研修に参加することについては、「必要」「とても必要」が100%であった。また、幼児教育施設職員と小学校教職員とともに、幼児教育施設と小学校の職員と一緒に研修会に参加することは効果があったと回答した。

このように、小学校への円滑な接続のために、それぞれが共に学び、情報交換をしながら相互の役割を理解し、保育や教育を実践していくことが求められていることへの理解が進み、効果を実感する取組も行われるようになった。



(アンケートは、平成30年11月に市内の全幼児教育施設と全小学校を対象に行ったもの)

【幼児教育施設職員の声から】

- 私はこの構築事業の研修会等にたくさん参加させていただき、幼稚園や小学校の先生方とのお話させていただく機会があったり、幼児教育についての勉強をする機会があったりと、様々な学びをいただきました。そして、自分の中で向上心が芽生えたように思います。しかし、この気持ちを継続していくためには、今後もこのような機会がないと気持ちの継続が難しいと感じています。また、構築事業に参加できなかった方との温度差も感じます。今後も何らかの形で気仙沼市の幼児教育を支え、リードしてくれる機関や存在があると心強く感じます。
- 市立の施設は保育指針等が改訂されるたびに、独自に考察して変化できるように柔軟に対応してきたと思います。私立は経営もあるし、独自の保育、教育をしてきていて何十年も変わらない部分があると感じます。全市的に研修することが変革につながると思いますが、継続してゆくことで、全市的に変化があればよいのではないかと思います。

④ 幼保小連携に向けた具体的な取組の増加

幼児教育コーディネーターが丁寧な説明を繰り返し、就学前の保育の重要性を伝え、気仙沼市アプローチカリキュラム作成委員会を組織し、気仙沼市のモデルとなるアプローチカリキュラムの作成を進めることができた。また、平成30年度の第2回幼保小連携・接続研修会では、各保育施設のアプローチカリキュラムと小学校のスタートカリキュラムを持ち寄り、小学校区毎の円滑な接続について協議することもできた。

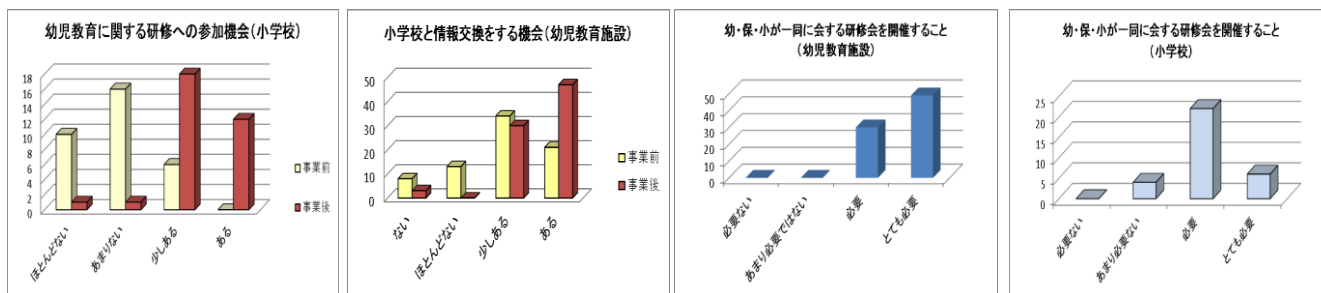
幼児教育に関する研修への参加機会について調査したアンケート（平成28年4月と平成30年11月の比較）の、小学校の教員の回答では、事業開始前が「ほとんどない」「あまりない」を合わせ81%であったものが、事業後には7%に減少し、逆に参加の機会が「少しある」「ある」という回答が94%と大きく上昇した。また、幼稚園や保育所の職員と一緒に幼保小連携や接続を考える研修の機会については、「少しある」「ある」という回答については、事業前は19%だったものが、事業後には81%となった。この結果にみられるように、事業開始前にはなかった市内の全小学校職員と保育所・幼稚園等の職員が共に集う研修の場が生まれ、幼保小連携・接続に関する研修会を開催することができた。

また、幼児教育施設で小学校と情報交換をする機会についてのアンケートでも「少しある」と「ある」の合計が、72%から96%になるなど、研修をきっかけとして、幼児教育施設と小学校の情報交換がより多く行われるようになった。この情報交換の機会の増加に伴い、私立幼稚園においても、5歳児が入学する小学校を訪問する体験が増えるなど、私立幼児教育施設と小学校の連携が図られるようになってきた。

さらに、幼児教育コーディネーターの調整により、小学校の授業を幼児教育施設職員が参観したり、幼稚園の保育活動を近隣の小学校教職員が参観したりする機会を設けることができた。

このような幼保小連携に向けた具体的な取組により、アンケートでは、幼保小が一同に会する研修会を開催することについて、幼児教育施設職員は、「必要」が38%、「とても必要」が62%と、全員が必要であると回答し、小学校教職員においても、88%が必要であると回答するなど、一緒に研修をすることが大切であることの認識が進んだ。

3年間の取組において、幼児教育施設向けの研修だけでなく、小学校教職員を含めた研修を開催したことが、就学前の子供たちの育ちへの関心を高め、本市内での幼保小連携の具体的な取組につながった。



(アンケートは、平成30年11月に市内の全幼児教育施設と全小学校を対象に行ったもの)

【幼児教育施設及び小学校教員の声から】

- 市内の幼保小の先生方と日頃の子供たちの様子や今後のアプローチの仕方などを直接話し合うことができ、また、施設での課題や悩み等にアドバイスをいただけて、たくさん情報交換ができたので良かったと思います。ありがとうございました。
- 小学校との連携の具体的な方法や保育に関する悩み、現状等について幼児教育アドバイザーの先生方に助言を頂くことで、新しいことにもスムーズに取り組むことができました。今後も色々なアドバイスを頂く機会を頂けたらと思います。アプローチカリキュラムの作成に携わることで気仙沼市の保育・幼児教育を土台としたねらいや援助の方法について考えることができました。園内で理解を深める時間を設けることがなかなか難しいところがありました。

(3) 課題

① 幼児教育に専門的取り組む職員の配置

現在の幼児教育担当職員は、教育委員会学校教育課副参事(指導主事)である。幼児教育関連施設の多くは、教育委員会の管轄外であり、他部局との調整に時間がかかる。また、担当する分掌も多く、幼児教育に専念できる状況とはなっていない。幼児教育コーディネーターやアドバイザーを統括し、専門的に幼児教育にあたる職員の配置が必要である。

② 幼児教育推進室の効果的な設置

教育委員会関連部署の一角に設置されている幼児教育推進室の機能を向上させるために、専用の電話やPC等が設置された部屋の設置が望ましい。

③ 幼児教育関連施設の職員の研修参加体制

幼児教育に関する研修機会の少ない保育所の指導者を対象とした研修を行う場合、保育所の勤務態勢や移動に伴う交通機関の確保など様々な制約がある。保育所を管轄する保健福祉子ども家庭課とともに、研修が受けやすい体制を整備していく必要がある。

④ 幼保小連携事業の体制づくりについて

公立の保育所や幼稚園の場合、その地域内にある小学校に入学することが多いが、私立の場合は、市内全域の複数の小学校に入学する。小学校と私立幼稚園・保育所の連携について手立てを講じていく必要がある。

本年度までに、各小学校では、スタートプログラムが作成されて実施されているが、保育所・幼稚園は、アプローチカリキュラムが作成されている施設が少ない。本年度に市として作成したモデルを生かし、各施設のアプローチカリキュラムが作成されるようにしていくとともに、小学校との連携による作成と改善を図る取組を進めていく必要がある。

⑤ 調査研究方法や内容について

保護者へのアンケートにより、入学前の不安や入学後の不安解消の様子を把握することができたが、その結果を具体的に改善に生かすまでには至っていない。保護者の不安の解消に向けて幼児教育施設と小学校がなすべきことを具体的に検討することが必要である。

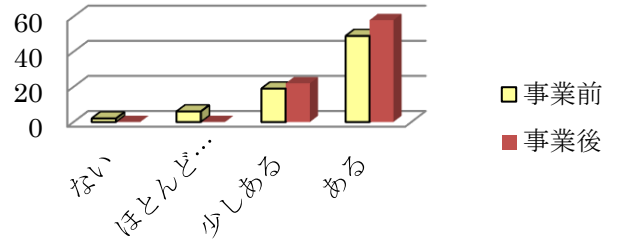
5. 今後の展望

現体制の維持を基本姿勢とし、幼児教育推進室の継続と効果的な設置と部局間連携の専門的職員の職員配置に向けて、教育委員会部局内の協議だけでなく、市長部局との協議に向けて準備を進めていきたい。本事業において成果のあった幼児教育に関わる幼保小の連携の促進や職員の資質向上に資する研修の継続、関係部局間の連携促進などを継続するために、訪問調査や研修等を企画・調整する幼児教育コーディネーターの継続配置と施設への助言等を行う幼児教育アドバイザーの配置をしていきたい。

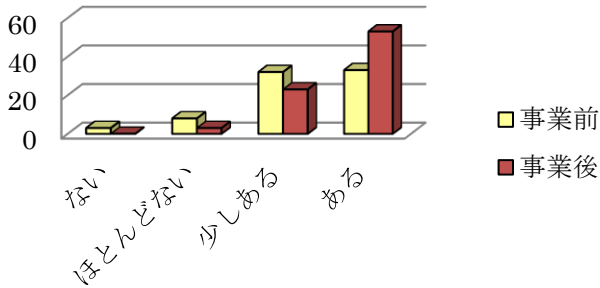
幼児教育職員向けアンケート結果

実施期日：平成30年12月6日～12月14日
 対象：市立幼稚園，市立保育所，認定こども園，
 私立幼稚園，私立保育所，
 認可外保育施設 計 25施設
 回答者：各幼児教育施設の 園長13名，所長1
 2主任25名，教諭14名，保育士16名

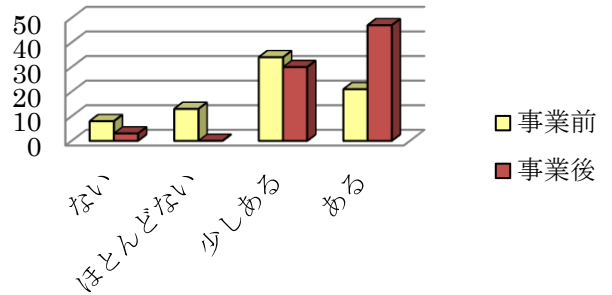
保育に関する所・園外での研修の機会
 (幼児教育施設)



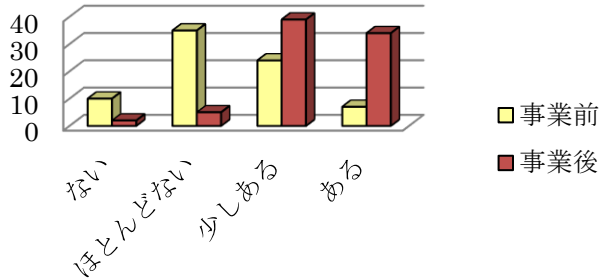
保育に関する園・所外での相談の機会
 (幼児教育施設)



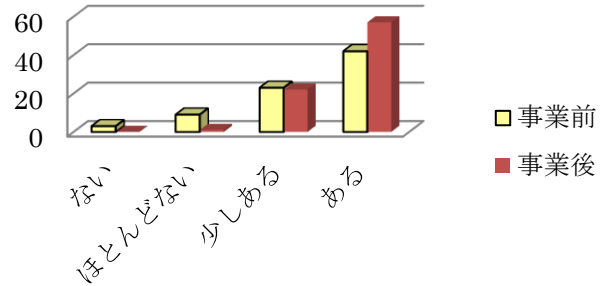
小学校と情報交換をする機会
 (幼児教育施設)



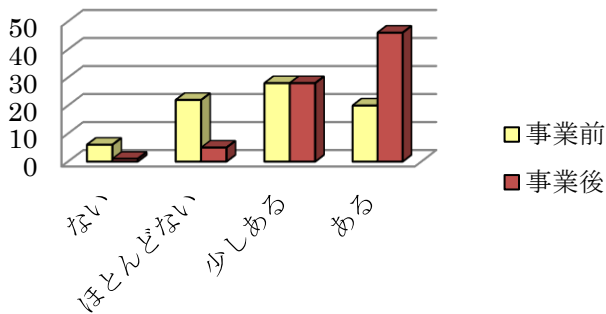
小学校の先生と一緒に幼保小連携や接続を
 考える機会 (幼児教育施設)



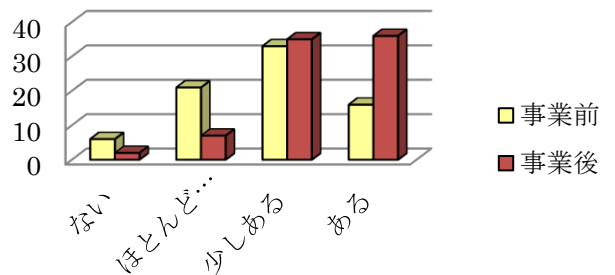
他の保育所・幼稚園の職員と
 情報交換をする機会 (幼児教育施設)



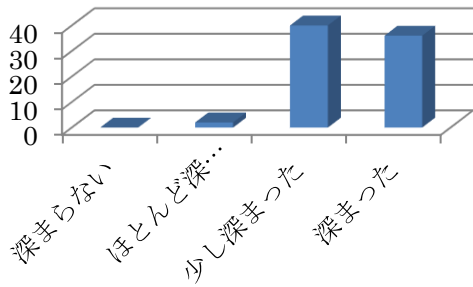
市全体の幼児教育を意識したり
 考えたりする機会 (幼児教育施設)



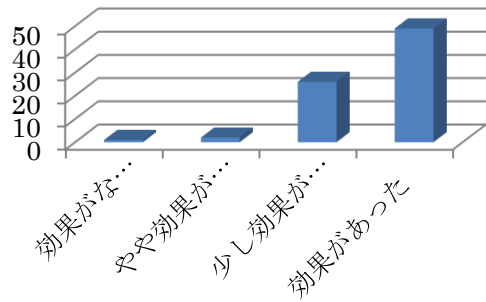
市の保育方針を基に，自身の施設の
 保育方針を検討する機会
 (幼児教育施設)



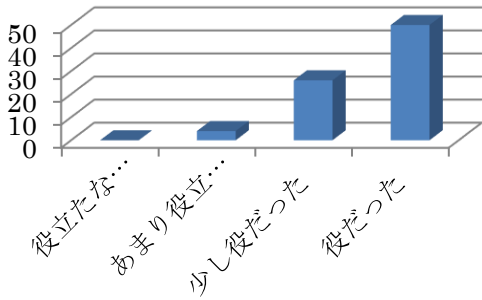
研修によって、保育に関する知識・理解が深まりましたか (幼児教育施設)



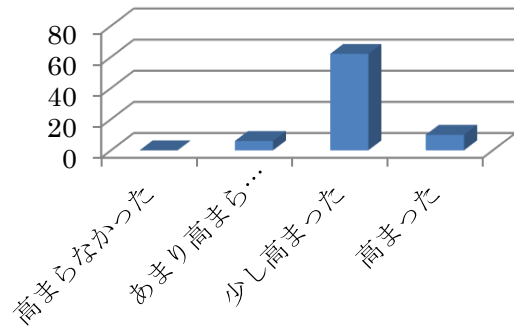
他の保育所・幼稚園との情報交換の機会を設けたことは、効果がありましたか (幼児教育施設)



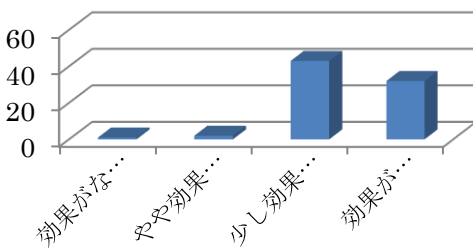
幼児教育コーディネーターによる保育に関するアドバイスや支援は役立ちましたか (幼児教育施設)



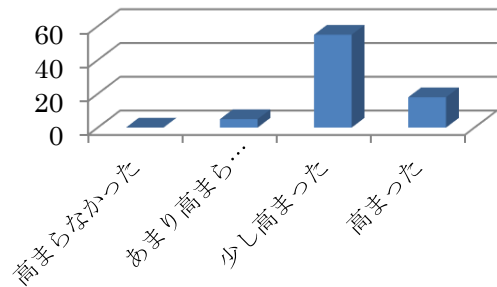
気仙沼市全体の幼児教育の質は高まりましたか (幼児教育施設)



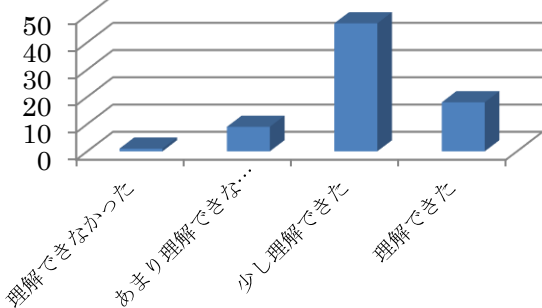
研修会等で小学校との情報交換をする機会は効果がありましたか (幼児教育施設)



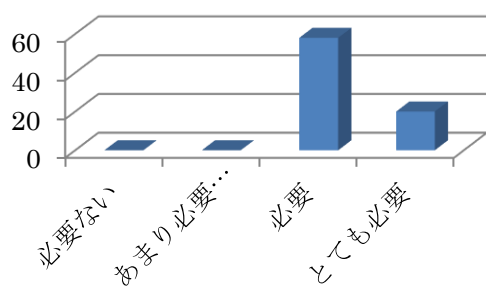
所属する園・所内の保育の質は高まりましたか (幼児教育施設)



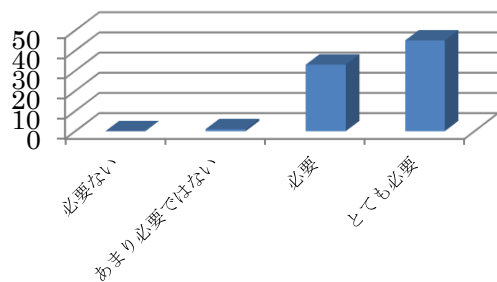
気仙沼市が進める幼児教育・保育の方向性や取組の理解はできたか (幼児教育施設)



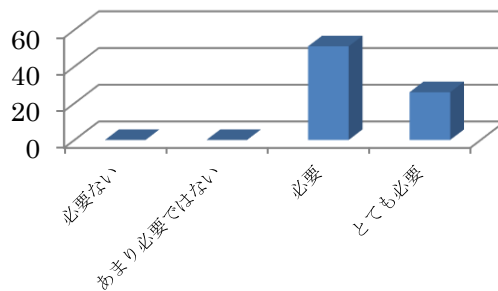
幼児教育推進室を継続して設置すること (幼児教育施設)



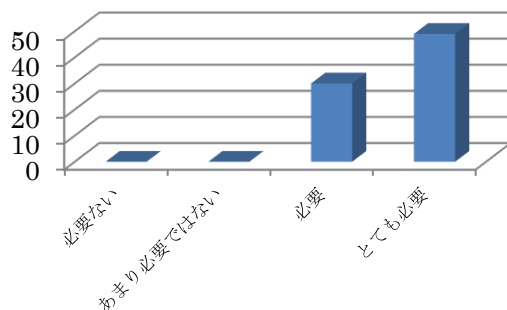
公立・私立，幼稚園・保育所が
一同に会する研修会を開催すること



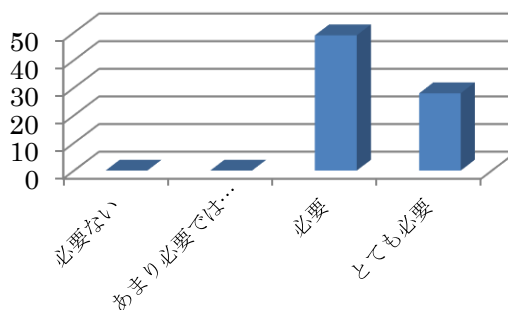
幼児教育コーディネーターを
配置すること（幼児教育施設）



幼・保・小が一同に会する研修会を
開催すること



幼児教育アドバイザーを配置すること
（幼児教育施設）



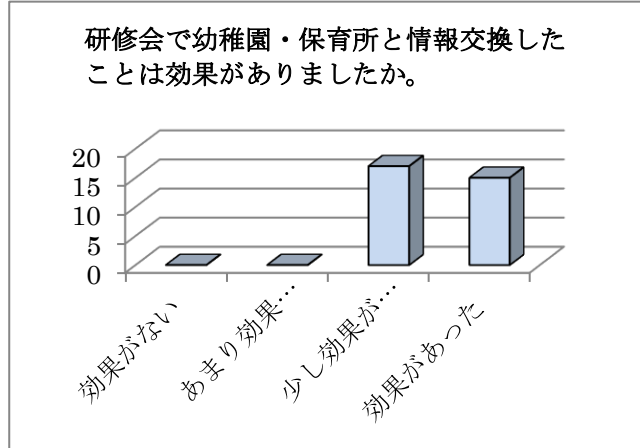
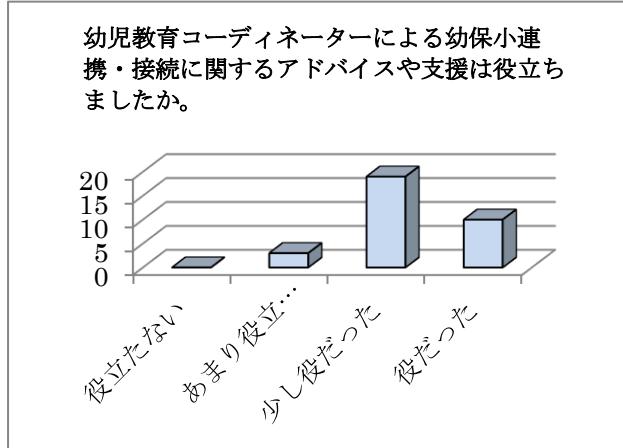
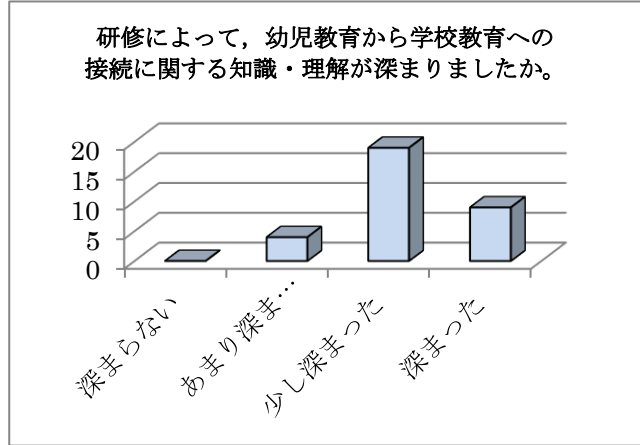
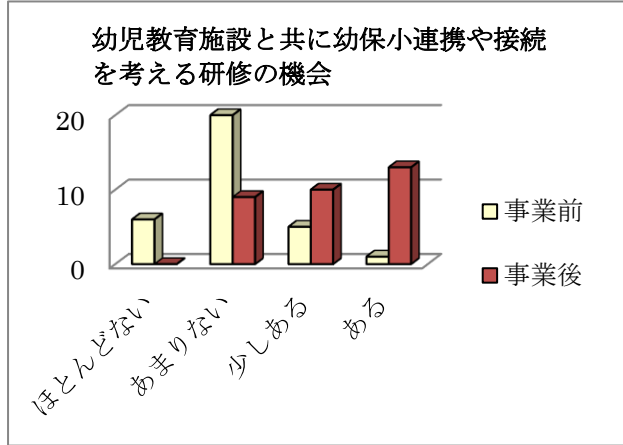
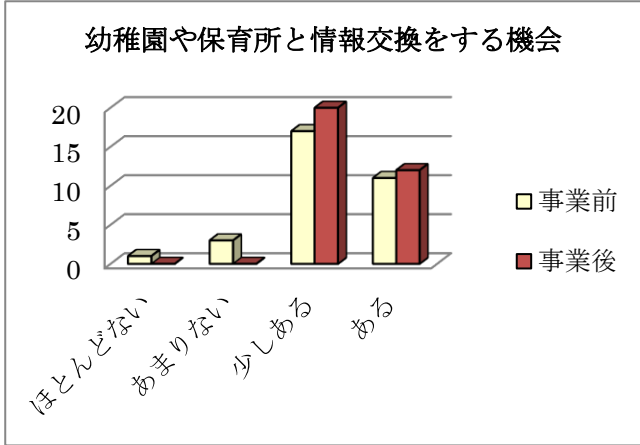
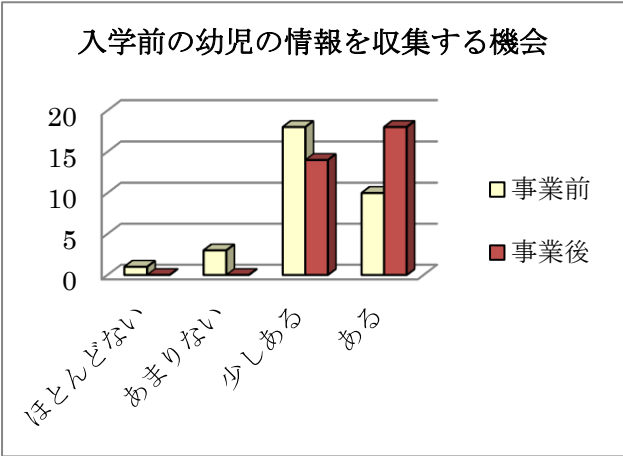
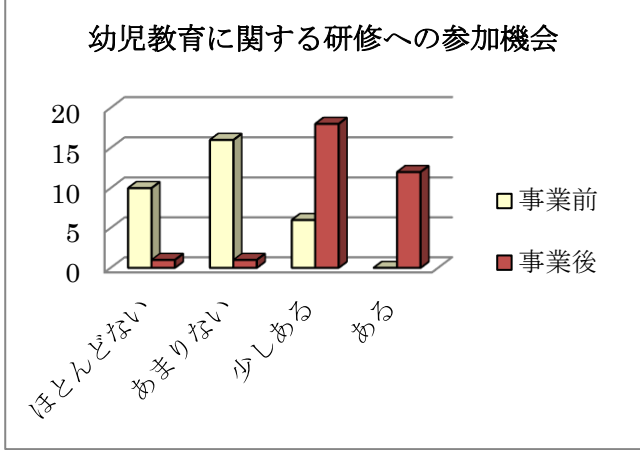
- 市内の幼保小の先生方と日頃の子供たちの様子や今後のアプローチの仕方などを直接話し合うことができ、また、施設での課題や悩み等にアドバイスをいただけて、たくさん情報交換ができたので良かったと思います。
- 今までより小学校との連携を密にとることができ、就学児童にとってスムーズに学校生活を送るために有意義な事業だと思えます。
- 市立の施設は保育指針等が改訂されるたびに、独自に考察して変化できるように柔軟に対応してきたと思います。私立は経営もあるし、独自の保育、教育をしてきていて何十年も変わらない部分があると感じます。全市的に研修することが変革につながるとは思いませんが、継続してゆくことで、全市的に変化があればよいのではないかと思います。
- 今まで、幼保小と一緒に研修したり情報交換したりする場があまりなかったので、今回この事業のおかげで交流することができ、ありがたかったです。今後も継続してくれることを願っています。
- 保育所と幼稚園の垣根を越えて、一同が気仙沼の幼児教育・保育について話し合ったり、研修に参加することは大変良いことであり必要なことと思います。が、保育現場においては、保育中に職員を出席させるのは人手不足もあり難しい面があること、交通手段がとれないことがこの先の課題です。
- 有意義な研修に参加させていただく機会が多くあり、とても勉強になった。ただ、子供の保育時間が職員の勤務時間より長く、保育日数も多い保育所としては、職員を参加させるためのやりくりがとても大変で、今後も続けて参加させるためには職員の配置を考える必要が大いにあると感じた。福祉施設であるために、学校と同じレベルで教育的配慮をする難しさも感じた。
- 現在の職員体制では、施設から幼児教育コーディネーターの捻出は難しいと思います。幼・保・小で情報交換ができたことは保育を進める上で役立ちよかったです。高度な教育・保育ではなく、実際の幼児の実態に添った教育・保育が重要になってきていると思います。

- 保育所では、実践していく中で覚えて学んでいくことが多く、指導いただいて学ぶ機会がないように思います。保育にまつわる多方面での相談や教えていただける場があることは大切と思います。
- 小学校や幼稚園の先生方と一緒に研修できる場が増えたと思います。ぜひ継続して、幼・保・小、公立・私立関係なく子供たちのための事業をたくさん行い、保育の質を保育の質を高められるようにしてほしいと思います。
- 初の公開保育が行われたことにより、公立・私立、幼稚園、保育所が隔たりなく、今回のような公開保育や研修会が開かれていくことを望みます。
- 3年間お世話になりました。私はこの構築事業の研修会等にたくさん参加させていただき、幼稚園や小学校の先生方とのお話させていただく機会があったり、幼児教育についての勉強をする機会があったりと、様々な学びをいただきました。そして、自分の中で向上心が芽生えたように思います。しかし、この気持ちを継続していくためには、今後もこのような機会がないと気持ちの継続が難しいと感じています。また、構築事業に参加できなかった方との温度差も感じます。今後も何らかの形で気仙沼市の幼児教育を支え、リードしてくれる機関や存在があると心強く感じます。お世話になりました。ありがとうございました。
- 事業を継続した研修や指導体制の構築が必要と感じます。外から客観的に見て、指導助言をいただくことが保育の質の向上に結びつくと思います。
- この3年間、本事業について意識して取り組み、研修にも参加してきました。そのおかげか職員間でも研修成果を共有し、ともにスキルアップできたように感じます。しかし、今後も幼児教育の質の向上を図るためにも、是非とも継続してもらいたいです。
- 幼稚園、保育所の互いの保育参観（例えば指導主事訪問等の機会を利用する等・・・）をしてみたいです。幼稚園だけでなく、保育所ならではの生活リズムをふまえた保育なども参観等を通して勉強してみたいです。
- いつもいろいろなご指導、ご助言をいただきありがとうございます。気仙沼市としての幼稚園、保育所が同じ方向を向きながら、各施設の特性を生かしつつ教育（保育）をしていけるよう努力していきたいと思えます。
- この事業のおかげで、自分自身が気仙沼市全体の幼児教育を理解しようとする意識ができ、それに向けての取組を園内でも話し合う場をもつようになった。このことは、大きな収穫であったと思います。できれば、今後も私たちが共通理解できる幼児教育の場を提供していただける場を作っていたらと思います。
- 何度も園に訪問していただき、幼児へのかかわりや仕事への向き合い方にアドバイスをいただき、とても勉強になりました。就学に向けて、連携や接続での課題はまだありますが、学んだことをいかせるよう頑張りたいと思います。ありがとうございました。
- アドバイザーの先生方には、ご苦労もおありだったことと思いますが、現場で働く者として心強く感じておりました。公立、私立の幼稚園、保育所の先生方との情報交換ではいろいろな状況を理解し合え、特に顔見知りになったことが良かったと思います。同じ足並みで進むことは難しい面もありますが、気仙沼市の子供たちのためという想いは共通にできたと思います。たくさんご指導いただきましたことに感謝申し上げます。
- いつもお忙しい中訪問していただき、いろいろアドバイスをいただき大変ありがとうございます。気仙沼市の就学前の子供たちが、同じような体験をし、楽しく学校生活がスタートできるようにするためにも、やはり幼保小、公立・私立の職員が集まり共通理解をし、同じ方向に向かうことが大切だと思う。そのためには、お互い忙しいと思いますが時間を作って研修会等に参加していく必要があったと思います。今後ともよろしく願います。
- 推進室の設置及びコーディネーター、アドバイザーの配置は必要であると感じますが、引き受けてくださる先生方のご負担が大きいのではないかと・・・と。（困った時に相談にのっていただける環境は大変ありがたいです）
- 幼児教育アドバイザーの訪問を毎年受け、いろいろなアドバイスをいただいております。ありがとうございます。
- 施設に勤務している職員は、乳幼児のために研修に出席したりしながら頑張っています。市と幼児教育施設だけでなく、養育者も巻き込んでいかないと効果が上がらないのではないのでしょうか。

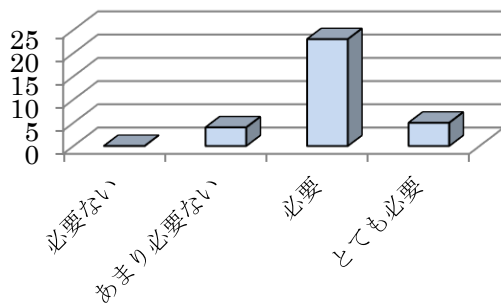
- 様々な研修に参加する機会を与えてくださり感謝しています。特にアプローチカリキュラムの作成においては、“自分の施設でも作らねば・・・”と思いつつなかなか形にならずにいたので、市内の先生方と相談しながら一つにまとめていく工程がとても貴重な体験となりました。これを土台にしながら、自分の施設の独自の“色”を付け足していきたいと思います。また、アドバイザーの先生方にはいろいろなお話を聞いていただく中で心に寄り添ったアドバイスをいただき、とても心強かったです。ありがとうございました。
- 幼児教育は、あらゆる角度から多くの人の見守りによる連携が大事に思われます。事業を継続する中で、親御さんも一緒に考えていく内容の研修会を、小規模でもいいので多く設けていただきたいと思います。
- 公立、私立関わらず、幼保小の情報交換ができる機会は貴重だと思います。時期を見ながら定期的を開催していただき、スキルアップや自園の保育の振り返り等に役立てていきたいです。
- 講師の先生をお迎えしての研修や、小学校の先生との情報交換は非常に役立ちました。今後もぜひ研修会の開催をお願いしたいです。幼児教育コーディネーターの先生にお願いして、小学校見学へ行くことができましたので、ぜひ今後も続けていただきたいと思います。
- 幼稚園、保育所側からみるアプローチカリキュラムだけではなく、小学校側から見て、「小1プログラム」を乗り越えていくために必要なこと（土台）は何か、今の子どもたちや家庭に必要なところは何か等、話し合える機会（教えていただく機会）があると、これからの保育に生かせるのではないかと感じております。
- 幼稚園教育に深いご理解を頂き感謝しております。特に最近は従来と違って幼保の横の連絡を保ちながら研修等を行う機会が増えて相互理解も深まり、刺激し合うことができうれしく思っております。幼保、幼小との連携など行政面でもご苦労が多いかと存じますが、今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます。
- 小学校との連携の具体的な方法や保育に関する悩み、現状等について幼児教育アドバイザーの先生方に助言を頂くことで、新しいことにもスムーズに取り組むことができました。今後も色々なアドバイスを頂く機会を頂く機会を頂けたらと思います。アプローチカリキュラムの作成に携わることで気仙沼市の保育・幼児教育を土台としたねらいや援助の方法について考えることができましたが、園内で理解を深める時間を設けることがなかなか難しいところがありました。
- 幼児期の「気になる子」が増え、家庭の意識も大きく変化している今日、幼保小の連携は、子供の育ちの上でとても重要であり、そのパイプ役となる人の必要性を感じる。
- 本事業全体の理解が不十分であるのが現状です。事業の推進状況と現場との開きがあるようにも感じます。（幼稚園、保育所との交流、意見交換等が必要です。保育所でも日々の保育の振り返り等言語化したり文章化したりすることをこれから意識して取り組んでいきたいと思っています。

小学校教員向けアンケート結果

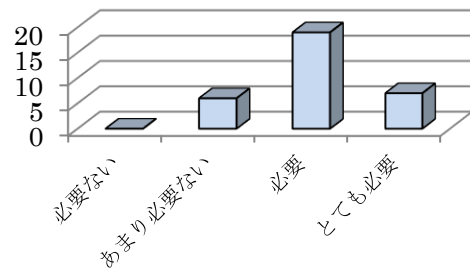
実施期日： 平成30年12月6日
 ～12月14日
 対象： 小学校15校
 回答者： 教頭15名
 主幹教諭1名
 教諭 15名



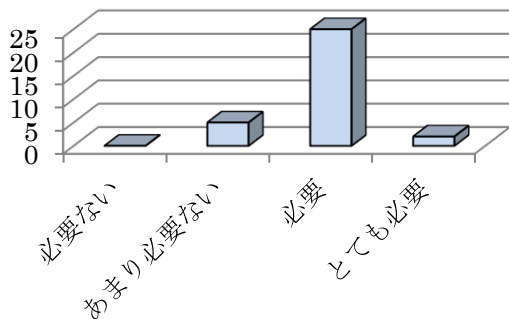
幼児教育推進室を継続して設置すること



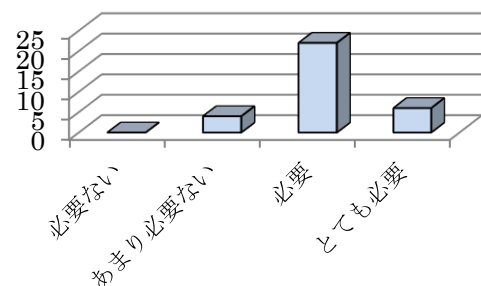
幼児教育コーディネーターを配置すること



幼児教育アドバイザーを配置すること



幼・保・小が一同に会する研修会を開催すること



- 校種間の連携は、児童の教育にとってとても大切なことと考えますが、今まであまり理解が深まらず、接続を意識した取組は行われていなかったと思います。
- 入学前に個々の子どもの状況（家庭も含めて）共有する必要がある。支援体制に影響するので、具体的な情報交換や、交流活動も必要である。
- 幼稚園の学習の様子を参観させて頂くと、細やかな準備の大切さ、規律を身に付けさせるための指導の重要生等に、改めて気付かされます。幼、小の連携を、授業研究や、検討会にも活用していけたらと思います。
- 子どもの側から考えた幼小連携・接続が必要だと考えます。本校には、複数の幼稚園や保育所から入学してきますので、出身の幼稚園・保育所によって幼小の交流の経験に極端な差があると、経験の少ない児童にとっては不安を抱える要因になる恐れがあります。幼児教育コーディネーターの方々に、市内で現在実践されている、あるいは今後予定されている幼保小連携の実践を把握し、その情報を発信して頂いたり、共有する場を設定していただく事が今後ますます重要になると思います。
- 幼・保・小とも忙しい中ですが、顔を合わせて、親しみをもって話し合うことで、各々指導に生きる情報を得られると思いました。
- コーディネーターさんが、家庭での教育、しつけの大切さを話してくださると、若い担任から話されるより、説得力があって良いと思います。
- 幼保小が一同に会する研修会は、互いの教育の方向性を確認し、幼小のつながりや系統性のある指導の軸になるものであると感じました。
- 学区内の幼保小で定期的に打合せを行っているが、他学区の取組などを聞く事ができ参考になりました。



平成31年（2019年）3月発行